

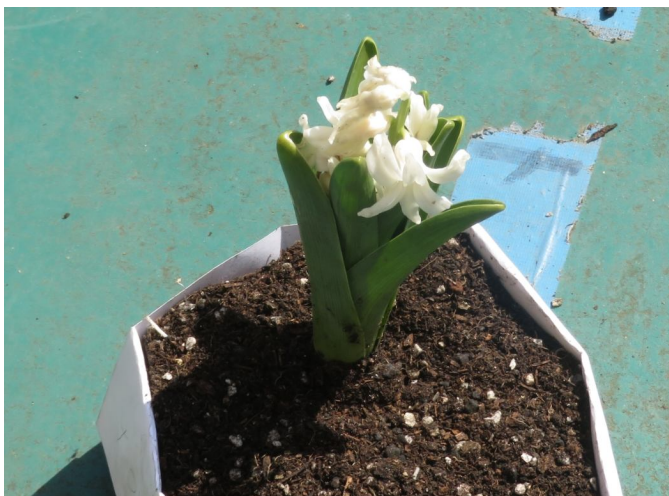
「ヒヤシンスを持ちかえる(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

水栽培のヒヤシンスは成長が速く、秋植えの場合、1月には花が咲き始め、2月には終わってしまう。しかし、土植えの場合は、非常に成長が遅く、2月中旬から下旬に満開になる。それでも今年は、3月に入って暖かい日が多く、一気に花が咲いて、そろそろ枯れてきた。



枯れたヒヤシンスの花穂は、根元から切ってしまうほうが良い。土植えの場合、その根元に大抵新しい花穂ができてきているからだ。古い茎を除去すると、新しい花穂がぐんぐん伸びてくる。写真は古い花穂を切ったところだ。



古い花穂は、ほとんどの子どもが捨ててしまうが、この男の子は、「かわいそうだから」と、大切そうに持ち帰っていた。



植木鉢の根の隙間にも、虫たちは住んでいる。モグラなどの天敵もいないので、冬越しには格好の場所なのだろう。1年生が大好きなダンゴムシも大量に出てきた。私はR-1(乳酸菌飲料)の容器を配ってあげた。



これはある子どもの「ダンゴムシの巣」土と一緒に、餌になる枯葉が入っている。「ダンゴムシはずっと土の中にいて、一回もヒヤシンスの花見たことないから」と言って、花も一つ入れてあった。



ハナムグリの幼虫と思われるものも、大量に育っていた。教師もヒヤシンスも虫には勝てない。後半はほとんど「虫探し」の活動になってしまった。